

令和7年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第11号 (果樹)

令和8年3月9日発表 (対象期間: 令和8年3月9日~5月中旬)

●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

検索

掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話: 082-420-9662 (直通)

※次回の予報発表は令和8年5月中旬ごろです。

1

果樹全般病害虫について

果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)

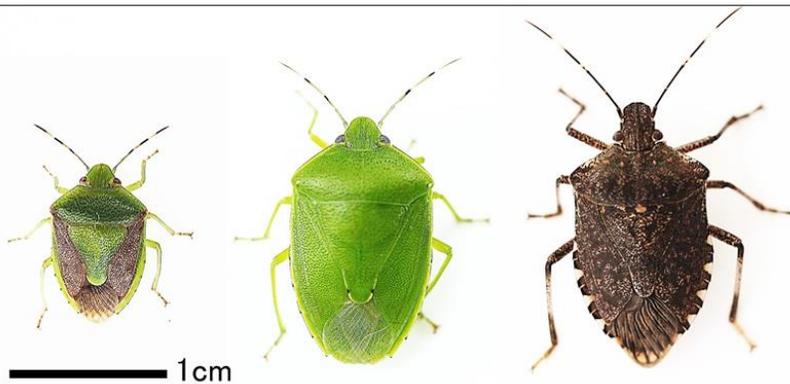
予報

多

予報の根拠

●令和7年12月~令和8年1月に行ったチャバネアオカメムシ越冬量調査の結果、捕獲地点率は50.0% (平年19.9%、図1)、平均虫数は0.79頭/地点 (平年0.3頭、図2)で、過去10年と比較して多い越冬量でした (+)。

※4月以降はフェロモントラップ調査データを、ひろしま病害虫情報に公開しますので、防除対策の参考にしてください。



左からチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ

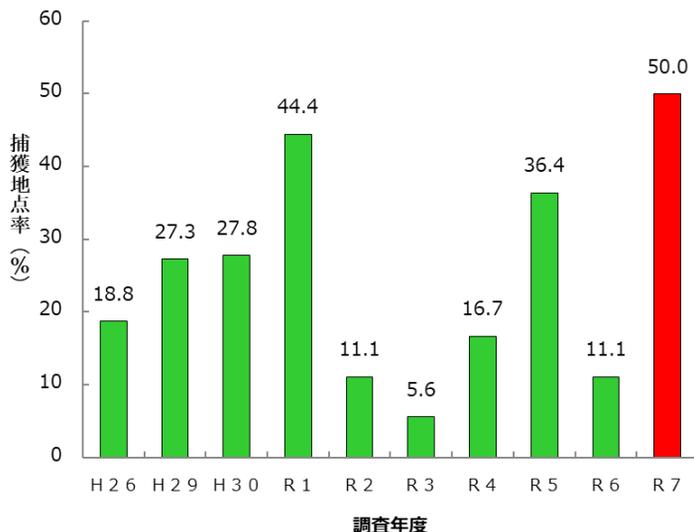


図1 チャバネアオカメムシの捕獲地点率

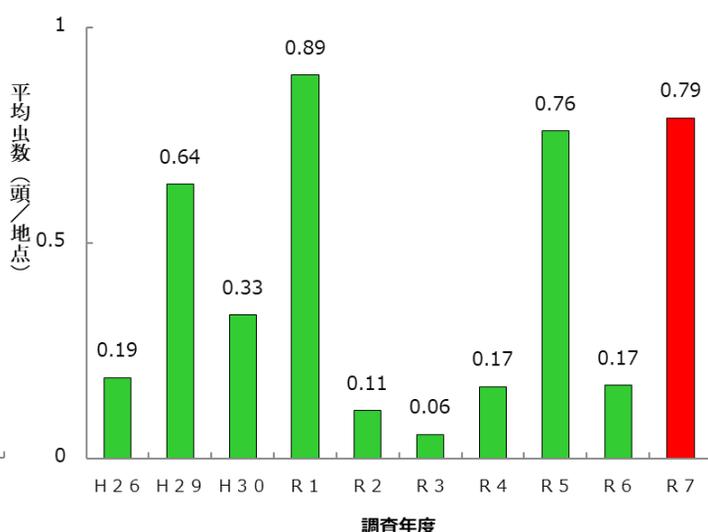
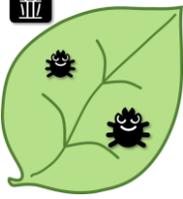
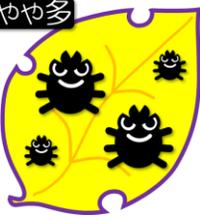
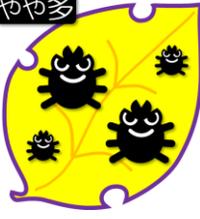
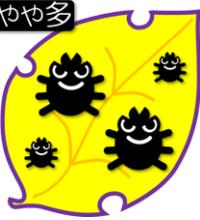
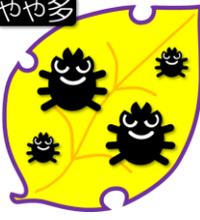


図2 チャバネアオカメムシの平均虫数

※H27、H28は調査地点数が少ないためデータから除外した。

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
かいよう病			<ul style="list-style-type: none"> ● 前作の着果過多や寒波の影響により、樹勢が著しく低下している場合は銅剤の散布を控えましょう。 ● ハダニまたはカイガラムシ防除で、高度精製マシン油乳剤を散布した場合、銅剤の散布は間隔を14日空けて行いましょう。
ミカンハダニ			<ul style="list-style-type: none"> ● 冬季にマシン油乳剤散布を行っていないほ場では、必ず3月中の高度精製マシン油乳剤散布を行いましょう。
そうか病			<ul style="list-style-type: none"> ● 発生が確認された葉は、直ちに除去し、園外で処分しましょう。 ● 基幹防除を徹底しましょう。
ヤノネカイガラムシ			<ul style="list-style-type: none"> ● 移動性が低く圃場の一部に集中して発生することが多いため、寄生部位を中心に周辺の枝葉、果実の状況を確認し、見つけ次第捕殺します。 ● 発生園で、冬季にマシン油乳剤の散布を行っていない場合は、必ず3月中に高度精製マシン油乳剤を散布しましょう。

※低温の影響により、複数のほ場で、落葉や枝の枯れこみなど樹勢が低下している樹が見られました。3月の病害虫防除は非常に重要ですが、樹勢が著しく低下している場合は、高度精製マシン油乳剤や銅剤の散布を控えましょう。

【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相对比较しています。

- 「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上
「やや多」 : 2～3番目と同程度
「並」 : 4～7番目と同程度
「やや少」 : 8～9番目と同程度
「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下

①かいよう病

現況

並

予報

並

予報の根拠

●巡回調査では、レモン、ネーブルともに平年並の発生でした（±）。

- (+) : 多発要因
- (±) : 平年並
- (-) : 少発要因

●向こう1か月の降水量は、平年より少ない確率が40%です（-）。

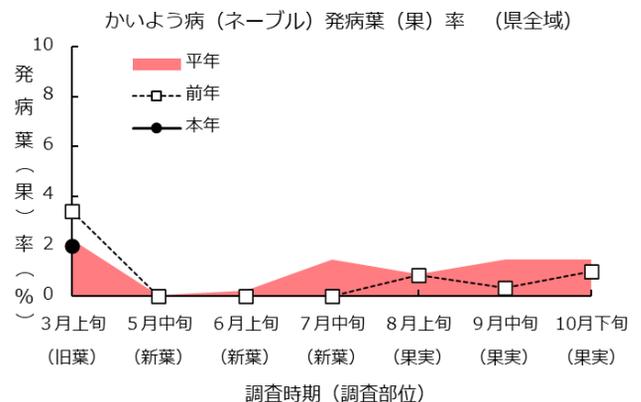
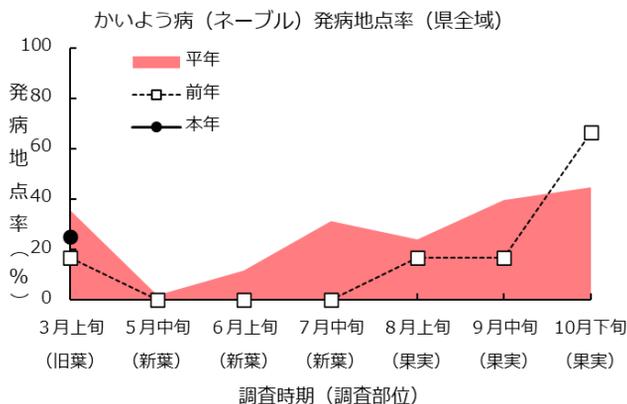
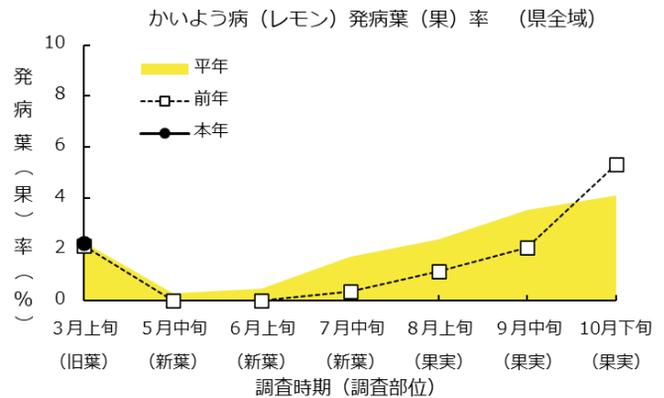
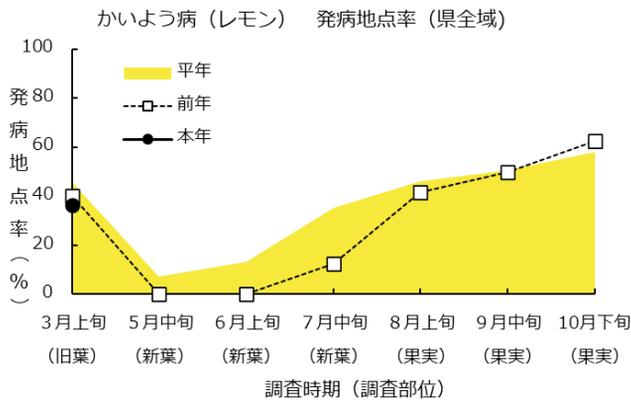
【防除上の注意事項】

- 発病した葉や枝、果実は伝染源となりますので樹上から除去し、ほ場外に持ち出しましょう。
- 前作の着果過多や寒波の影響により樹勢が著しく低下している場合は銅剤の散布を控えましょう。
- 銅剤と高度精製マシン油乳剤との散布間隔は14日以上あけましょう。
- 散布適期は、発芽前です。



ミカンハモグリガの食害痕から発病したかいよう病

【巡回調査データ】 ※県内全域まとめ



②ミカンハダニ

現況

やや多

予報

やや多

予報の根拠

- 巡回調査では、発生地点率は50.0% (平年24.1%)、寄生葉率は1.3% (平年1.7%) で、平年よりやや多い発生でした (+)。
- 向こう1か月の気温は平年並の確率が50% (±)、降水量は平年より少ない確率が40%です (+)。

【防除上の注意事項】

- 冬季にマシン油乳剤散布を行っていないほ場では、必ず3月中旬に高度精製マシン油乳剤散布を行いましょう。
- ただし、寒波等で樹勢が低下している場合は、散布により落葉する場合がありますので注意しまししょう。



雌成虫
(体長0.5mm程度)



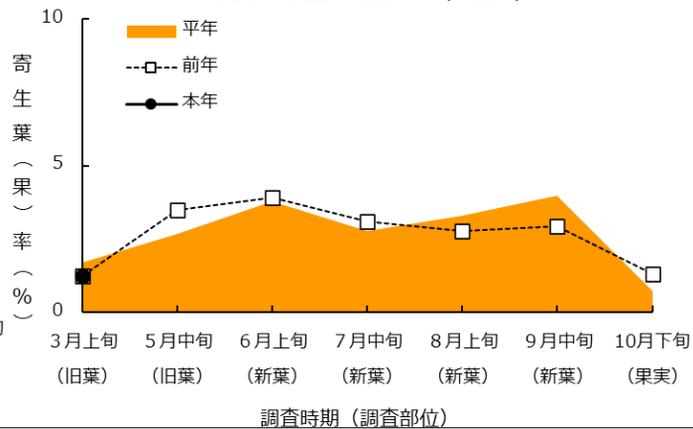
葉のかすり症状

【巡回調査データ】

ミカンハダニ 発生地点率 (県全域)



ミカンハダニ 寄生葉率 (県全域)



3

中国地方1か月予報

(広島地方気象台3月5日発表、3月7日から4月6日までの天候見通し)

- 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- 平均気温は、平年並の確率が50%です。
- 降水量は、平年より少ない確率が40%です。
- 日照時間は、平年より多い確率が40%です。

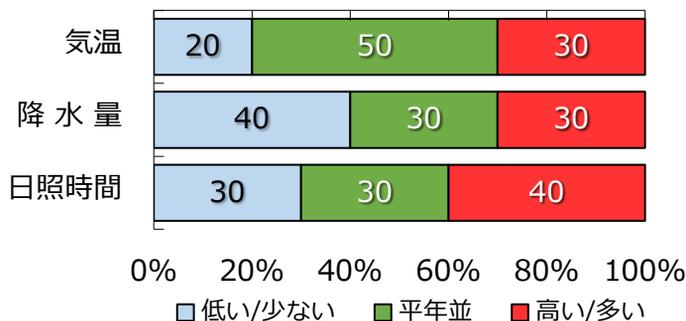


図3 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

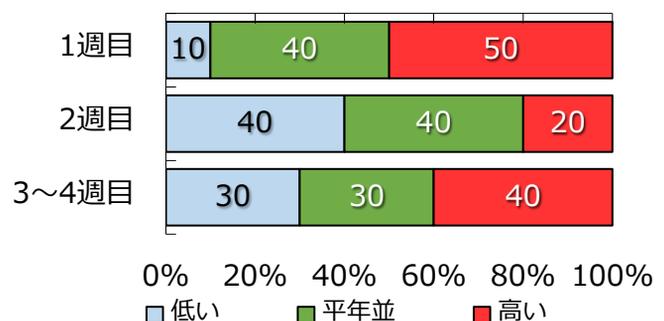


図4 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)